

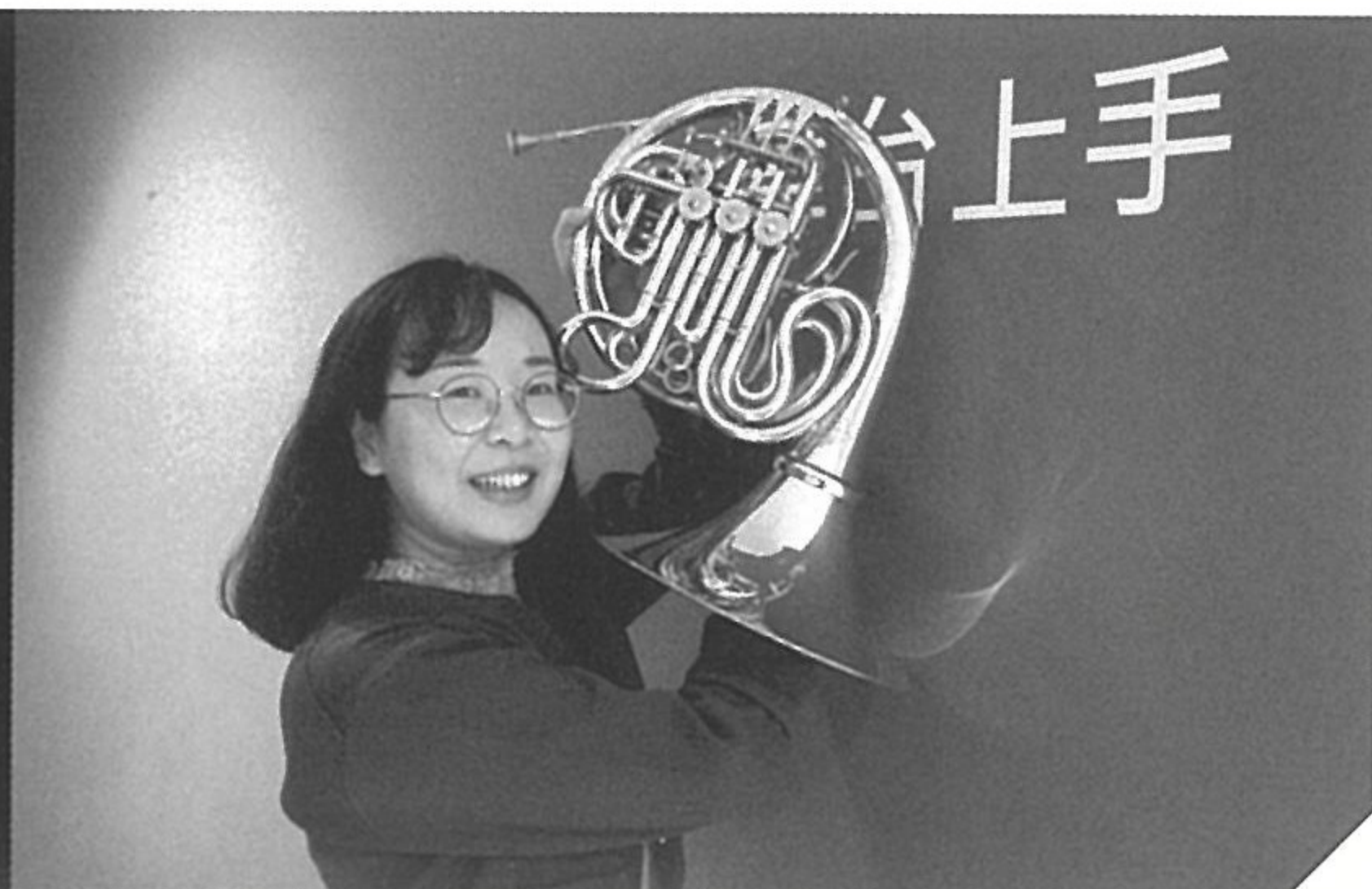
Interview

楽団員インタビュー Vol.63

オーケストラの良さを
伝え続けられる
存在でありたい

ホルン 矢吹 日香理

Hikari Yabuki, Horn



◆ホルンを始めたきっかけは？

中学校の吹奏楽部です。ホルンの先輩が優しく仲良くなり、そのまま……。

◆オーケストラプレイヤーを目指したきっかけは？

はじめから「大人になってもホルンを吹けていたらいいな」とぼんやりとっていて、生協のチラシを見てCDを買ったり「N響アワー」を見たりしてのめり込んでいました。あとは憧れの先輩が当時いたので(笑)追っかけて高校、大学……と進んで行ったら素晴らしい出会いにたくさん恵まれて、その先にプロオケがありました。大勢で何かを作り上げる事が好きで、オーケストラに限らず、オペラやバレエ、ミュージカル、映画も素敵だなと感じていました。

◆好きな作曲家・曲はありますか？

山響に入ってさらに好きになったのはモーツァルトやベートーヴェンです。古楽器を吹くようになって見え方が変わりました。楽譜ではホルンの場合、大抵はドミソで済むのですが、ファやシ、まれにラが出てくる時に作曲家がホルンをオケの中でどう鳴らしたいかがよく分かります。右手の使い方次第でぐもったピアノにも、効果的だけれど耳障りなフォルテにだって出来るからです。それによって現代の楽器よりも簡単に吹ける所もあります。こちらの都合を深く理解した上で名曲がたくさん生まれている……やっぱり天才だなあと。今後もさらに勉強していきたいです。

◆ホルンの魅力(または下吹きの魅力)は何ですか？

ホルンといえば多彩な音色が魅力だと思います。力強さ、繊細さ、ノスタルジーな表現など多くの作曲家が見せ場を作ってくれています。上吹きやソロにそれが回ってくるので、下吹きはその手伝いをする事もあれば、内声部との響きを合わせ

る役に回ることもあります。それがまた自分の性に合っていて、演奏がぴったりハマるとまた楽しいんです。

◆好きなホルン奏者はいますか？

ラデク・バボラクさんです。11月定期は、ホルン好きにはたまらないプログラムで、特にハイドン(ロゼッティ)の協奏曲は必聴です。世界的プレイヤーとの共演が山響で叶うのは、今からとても楽しみです。

◆使用している楽器について教えてください。

Alexanderの103です。

◆山形でお気に入りのもの、場所はありますか？

新幹線や電車の窓から見える景色です。ほっとします。

◆趣味や特技はありますか？

山形の新生活に合わせて、今まで飲んでこなかった(なぜか)コーヒーに挑戦し始めました。おすすめのコーヒーや喫茶店などの情報募集中です。

◆最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

いつも応援ありがとうございます。私は福島が地元でしたが、山形には山響があり、子どもたちが小学生の頃からクラシックに触れる環境があたりまえにあるのをとてもうらやましく感じます。私達の活動から音楽が好きになって、将来を夢見てくれる人が出てきてくれたら嬉しいです。また、オーケストラの良さを伝え続けられる存在でありたいと思っています。歴史ある山響の一員として皆さまに受け入れていただき、演奏会にますます足を運んでいただけるよう盛り上げていきたいです。これからも音楽の場でお会いできることを心から楽しみにしております。